

西の丸回廊にある女性の区域

独特の世界

腰元と侍女たちが城主とその家族の世話をした。彼女たちの区域は西の丸の回廊にあり、それは城の内部にある居住の建物に繋がるものであった。同様な配置は將軍の城や天皇の宮殿でも使われていた。姫路の回廊は一列に並んだ部屋と長い廊下から成っておりそれぞれ部屋は8畳(およそ13平方メートル)の広さがあった城に住む女性のほとんどここで毎日の生活をしていた。千姫には23人の侍女とその下に位置する16人の腰元がいた。さらに3人の侍女が娘の勝姫の世話をした。

後年の住居回廊

回廊の役割は城主の必要性や資源によって年月を経て替わった。千姫が城を去ったおよそ80年後に描かれた図では、廊下に沿っていくつかの場所が「干飯」という言葉が記されていて、それは部屋が生活区域としてではなく、緊急時の補給食料を蓄えていたことをほのめかしている。

御所歩行東日記：將軍の城の内部の女性区域の挿し絵の入った日記